

風のてのひら

～南高だより No. 119～
令和4年7月20日発行
発行責任者：長崎県立五島南高等学校
校長 立木英邦

「校長室の窓から」

「短かった梅雨、その後の猛暑」

～ラニーニャ現象の影響～

今年の九州北部地方の梅雨明けは7月に入る前の6月28日（火）でした。梅雨入りが6月11日（土）頃と発表されていたので、17日間の観測史上最短期間の梅雨で観測史上最も早い梅雨明けとなりました。全国的にも梅雨の期間、梅雨明けの時期は同じ傾向ですが、梅雨前線が北上し東北北部のみ梅雨明けが遅れ、梅雨のない北海道に大雨が降りました。

梅雨が明けた後は、連日最高気温30℃以上の真夏日、または35℃以上の猛暑日が数日間続きましたが、7月上旬の台風4号でもたらされた雨や風の影響で気温が幾分下がり、7月の中旬を迎えています。今年の夏は、太平洋高気圧とチベット高気圧が二重に重なり日本列島の広い範囲を覆うため、全国的に平年よりも気温が高く厳しい暑さになると予想されています。また、梅雨が短かったため、水不足も心配されています。

太平洋の熱帯域では、『貿易風』と呼ばれる東風が常に吹いています。この東風の影響で、海面付近の暖かい海水が、西太平洋側（インドネシア側）に吹き寄せられます。東太平洋側は表層の水が吹き寄せられるので、地球の自転の影響も相まって下の深海から冷たい海水が湧き上がってきます。西太平洋側では暖かい海水が東側一帯を覆うようになるため、海面温度が上昇します。海面温度が上昇すると、海面からの蒸発が盛んになり、大気が加熱されその水分が上空で冷やされます。上空で冷やされた水分は雲となり、活発な積乱雲を生み出します。逆に東太平洋側では大気が冷却されるので下降気流が生まれます。この大気の循環が、日本の夏に大きく影響する太平洋高気圧や偏西風の位置や強さを左右します。

今年の梅雨の時期から夏にかけての日本付近の気象には、ラニーニャ現象が大きく影響していると言われています。ラニーニャ現象とは、太平洋赤道域の中央部（日付変更変付近）から南米のペルー沿岸にかけての広い海域で、海面水温が平年に比べて低い状態が続く現象のことをいいます。ラニーニャ現象は、『貿易風』が強まって積乱雲が発生する位置が通常より西側となることで起こります。南アメリカ側から吹く東風が平常時よりも強くなると、西側の暖かい海水が東へ移動できなくなり、西側に暖かい海水が厚く蓄積する一方、東側（ペルー沖）では冷たい海水の湧き上がりが強くなり、海面水温が平常時よりも低くなるので、東西の海面水温の差が平常時より大きくなります。そうすると、インドネシア近海の上空では、平常時に比べて積乱雲がもっとも多く盛んに発生するようになります。

ラニーニャ現象が起きると、日本では夏は猛暑になり、冬は厳冬になる傾向があります。フィリピン海域付近で対流活動が活発になる影響で高気圧が発達しやすくなります。例年より太平洋の東西の温度差が大きくなるので東風が強くなります。そうすると太平洋高気圧は強化されて日本に強く張り出してくるので、西日本や東日本で高温になる可能性があります。また梅雨前線が北上しやすくなり、梅雨明けが早まる傾向もあります。梅雨が短くなったり、気温が高くなることで渇水の問題や熱射病、熱中症の可能性も高まります。ラニーニャ現象の時は、節水や暑さ対策が必要になります。

ラニーニャ現象とは逆の現象で、『エルニーニョ現象』と呼ばれるものがあります。エルニーニョ現象とは、太平洋赤道域の中央部（日付変更変付近）から南米のペルー沿岸にかけての広い海域で、海面水温が平年に比べて高い状態が続く現象のことをいいます。エルニーニョ現象は海水温を上昇させ、時には5℃以上の上昇が起こることもあります。エルニーニョ現象はその海域の大気の温度にも影響を及ぼします。海水温の上昇や大気の温度の変化は気圧変化につながり、大気の流れを変えたり天候を変えるなど、世界中の異常気象につながることも多いのです。エルニーニョが何らかの原因で発生すると、『貿易風』の力が弱まるので、西側へ暖かい海水が届きにくい状態となります。暖かい海水が東側に溜まると、太平洋高気圧の位置が東や南にずれるので、それに伴って発生する積乱雲の位置もずれることになります。

エルニーニョ現象が起きると、日本では夏は冷夏になり、冬は暖冬になる傾向があります。何らかの原因でエルニーニョ現象が発生すると、東風が弱まるので、暖かい海水が例年よりも東側に溜まります。太平洋高気圧の位置が東や南にずれると大気の循環がうまく働かず、太平洋高気圧の張り出しが弱いものとなり、梅雨前線を北へ押し上げるパワーがなくなります。そのため、梅雨明けが遅くなったり、はっきりしなくなったりするので、エルニーニョ現象が起きている年の日本は、冷夏傾向になります。本来暑い夏のはずが日照時間が少なかったり、雨がたくさん降ったりといった冷夏になると農作物の生育に影響が出ます。暑い夏を見越してのクーラーなどの電化製品、アイスクリームなどの食料品、夏仕様の衣類などの売上が落ち込むことで、経済にも大きな影響を及ぼします。日本海側では降水量が増加する傾向にあり長雨による災害も懸念されます。エルニーニョ現象が起きている年の日本は暖冬傾向にあります。暖冬になると冬物関連の消費が落ち込みます。冬物の衣料品や暖房器具、スキーやスノーボードなどのレジャーグッズなど、身近な商品の消費が低迷します。エルニーニョ現象が発生すると日本の経済活動は大きな打撃を受けます。

ラニーニャとはスペイン語で「女の子」、エルニーニョは「男の子」という意味です。

ラニーニャ現象とエルニーニョ現象の知識を十分に身につけておくと、その時期の夏や冬にしっかりと備えることができます。



～情報モラル教室～

7月12日（火）に、今年度第2回となる情報モラル教室が行われました。新型コロナウイルス感染防止のため、遠隔によるZOOMを用いた講義形式で行いました。

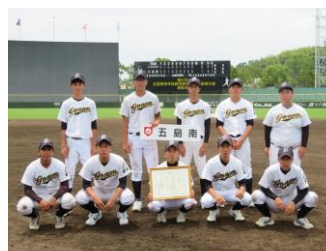


講師の臼倉様（NPO法人イー・エルダー）より携帯電話・スマートフォンの使用に関して、情報モラル、そして防犯意識を高めるお話を生徒たちに分かりやすく話していただきました。



～軟式野球部 第67回全国高等学校軟式野球長崎県大会～

7月17日（日）に第67回全国高等学校軟式野球長崎県大会が佐世保野球場で行われました。14日（木）には壮行式が行われ、木山主将の決意表明や校長先生の激励、総合文化部と生徒会の制作による応援DVDの上映などがありました。



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
北松農	0	1	0	6	0	1	0	0	0	8
五島南	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1



結果は、北松農業に8-1で敗退となりました。北部九州大会出場は叶いませんでしたが、主将の木山君を中心に、気概溢れるプレーが多く見られ、これまでの感謝の言葉も交わされました。たくさんの応援をありがとうございました。

～レクリエーション大会～

7月19日（火）に、校内レクリエーション大会が行われました。今年度も、バスケットボールやバドミントン、カードゲーム（トランプ）など、スポーツ+αの競技を取り入れ、クラス対抗で実施いたしました。夏休みを目前に、学校全体で盛り上がり、いい汗を流した1日となりました。



～7月下旬から8月の主な行事予定～

- 7月21日（木） 夏季補習〔～7月29日（金）〕
就職面接指導開始（3年：前期）
- 7月26日（火） インターンシップ開始（2年）
- 8月 9日（月） 登校日〈平和学習等〉
- 8月10日（水） 学校閉庁日（～15日）
- 8月17日（水） 夏季補習（3年）〔～8月19日（金）〕
就職面接指導開始（3年：後期）
- 8月19日（金） 1・2年生：稲作体験・稲刈り（予定）
- 8月22日（月） 登校学習（課題チェック）（予備日：23日）
- 8月24日（水） 全校集会、大掃除、服装頭髪検査
実力テスト（国・英・数・一般常識(3年のみ)）

ご相談やお気づきがありましたらいつでもご連絡ください。

五島南高校

電話 0959-82-0132

FAX 0959-82-0185

五島南高校メールメイトに是非ご加入ください。以下のアドレスに空メールを送ってご登録ください。

gotominami-t@m-mate.com

